

あすなろ学級（自閉症・情緒学級）自立活動指導案

加納岩小学校 あすなろ学級
指導者 三枝 剛

1. 単元名「ボールで楽しく運動しよう」

2. 単元設定の理由

(1) 児童観（別紙 児童観参照）

(2) 単元観（別紙 自立活動の区分と項目 指導目標と具体的な指導内容 参照）

B児、C児の日常の行動観察、学習場面での観察をもとに、学習指導要領自立活動の6区分26項目と照らし合わせ、自立活動の目標である「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を培う」ことを目的とし、作成した別紙「自立活動の区分と項目 指導目標と具体的な指導内容」を受け、今単元ではボールを使った運動遊びを自立活動の時間として設定した。

児童の、作業を円滑に遂行する能力を高めるためには、両手の協応や目と手の協応の上に、正確さや速さ、持続性などの向上が必要である。さらに、その正確さと速さを維持し、条件が変わっても持続して作業を行うことができるようにする必要がある。また、手足を協調させて動かすことや、微細な運動をすることに困難が見られる児童には、目的に即して意図的に身体を動かすことを指導したり、手足の簡単な動きから始めて、段階的に高度な動きを指導したりすることなどが必要である。手指の巧緻性を高めるためには、児童が興味・関心をもっていることを生かしながら、道具等を使って手指を動かす体験を積み重ねることが大切である。これらの必要な力を付けていくため、更に児童が興味をもって取り組んでいける活動として、ボール運動は大いに効果があると考えた。ボール運動はバランス感覚が養われるだけでなく、ボールの動きを目で追うことで、視神経の発達にも効果があり、手先の感覚運動、目と手の協応動作の訓練として有効である。

また、ボールを使って友だちと運動することで相手意識が高まり、コミュニケーションに関する力の向上が期待できる。コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と、受け取る側との人間関係が重要である。相手を意識しボール運動をしたり、お互い適切な言葉かけをしたりすることにより、人間関係の形成の、基礎的な部分を養っていけると考える。ボールを使いながら実際の場面を活用したり、場を再現したりするなどして、どのようなコミュニケーションが適切であるかについて、具体的に指導して行くことができる単元であると考えた。

(3) 指導観

B児は外部の刺激に気が散りやすく、集中して学習したり作業したりすることが難しく、相手を意識して適切に発言したり、言われたことに適切に反応したりすることに課題が見られる。また、聞いたことが分かってもうなずいたり返事がなかったりすることがある。C児

は、周りの状況を把握して慎重に行動することができるが、相手を思いやり、相手の立場になって言葉かけをすることに課題がある部分がある。そこで、『1 健康の保持（1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること』、『2 心理的な安定（2）状況の理解と変化への対応に関すること』、『3 人間関係の形成（1）他者とのかかわりの基礎に関すること』、『4 環境の把握（2）感覚の認知の特性への対応に関すること』、『5 身体の動き（5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること』、『6 コミュニケーション（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること』を関連させて意図し、相手に注目して、相手の取りやすいボールを考え、投げ合ったり、相手の気持ちになり適切な言葉かけをし合ったりすることで、相手を意識した思考や行動がとれるようにさせていきたい。

4年C児は、同学年の児童に比べると運動面を苦手としているところがあり、体育の時間など同学年にも遠慮して活動したり、自信をもって活動できなかつたりする様子が見受けられるが、あすなる学級の1年生に教えたりお世話したりしながら、自己肯定感が高まっている。そこで、『2 心理的な安定（1）情緒の安定に関すること』『3 人間関係の形成（4）集団への参加の基礎に関すること』を関連させ、ボール運動でC児が少しの努力で達成可能な成功体験を多くさせたり、下級生に教えたりお手本とさせたりすることで自己肯定感や自尊心を高め、何事にも自信をもって、交流学級や将来社会で活躍していこうとする気持ちを育てたい。

また、B児C児共に運動やゲームが好きであるが、同学年の児童と比較すると同じようにうまくできなかつたり、手先の繊細な動きが苦手だつたりする実態から、『5 身体の動き（5）作業に必要な動作と、円滑な遂行に関すること』、『3 人間関係の形成（4）集団への参加の基礎に関すること』を関連させ、ゲーム感覚で楽しく身体の動きを調整していくことができるよう、お手玉や、大小・硬い、柔らかい、スーパーボール等様々なボールを使い、児童の実態に即した多様な動きを、簡単な運動から段階的にさせて、身体の動きの巧緻性を高めさせ、自信をもって日常的に体を動かし、運動する習慣を身に付けさせていきたいと考える。

3. 単元の目標

（1）全体目標

- ボール運動を通して、身体の動きの巧緻性を高められるようにする。
- ボール運動を通して、相手意識を高められるようにする。

（2）実態と個人目標

氏名	実態	個人目標
B児 1年	<p>外部の刺激に気が散りやすく、集中して学習したり作業したりすることが難しい。</p> <p>運動は好んでするが、身体の動きにぎこちなさがある。相手を意識してコントロール良くボールを投げたり、投げられたボールをキャッチしたりすることが苦手である。</p> <p>相手を意識して、適切に発言したり、言われたことに適切に反応したりすることに課</p>	<p>○指示をしっかりと聞き、やるべきことを理解することができる。</p> <p>○ボールを、相手を見て相手に向かって投げたり、ボールを落とさず捕ったりすることができる。</p> <p>○相手の様子をみながら、相手に適切な言葉かけをしたり、自分勝手ではなく、相手を意識してボール遊びをしたりす</p>

	題が見られる。	ることができる。
C児 4年	<p>同学年の児童に比べると運動を苦手としているところがあり、それに伴い体育の時間など同学年にも遠慮して活動したり、自信をもって活動できなかつたりすることがある。</p> <p>4月当初はソフトバレーボールの片手投げや少し速いボールの捕球ができず、交流学級の体育「キャッチバレー」等でもパスをもらえなかつたり、自分から取りにいこうともしなかつたりする状態だった。特別支援学級で練習を重ね、自信が付き、声を出してパスをもらおうとしたり、遠くにボールを積極的に投げようとしてきたりしている。</p> <p>周りの状況を把握して、慎重に行動することができるが、相手を思いやり、相手の立場になって言葉かけをすることに課題がある部分がある。相手が説明の途中で、自分の判断から「違うよ」と遮り自分の主張を話し出したり、友だちが赤鉛筆を少し貸して欲しいとき、どんなにお願いされても拒否したりするようなことがある。</p>	<p>○1年生に合わせて、取りやすいボールを投げたり、ボールに合わせて体を動かして、ゆとりをもってボールを捕球したりすることができる。</p> <p>○少しの努力で達成可能なボール運動や、1年生に教える体験を通し、自己肯定感や自尊心を高める。</p> <p>○1年生に賞賛、激励、教授内容等の適切な言葉かけをすることができる。</p>

4. 指導計画 [全3時間]「ボールで楽しく運動しよう」

- 第1時 いろいろなボールで遊ぼう・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（10分×4回）
（いろいろなボールなどを使い運動し、ボールの動きに慣れる）
- 第2時 相手を取りやすいように、キャッチボールをしよう・・・・・・・・1時間【本時】
（相手を意識しながらキャッチボールをする）
- 第3時 いろいろなキャッチボールをしよう・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（10分×4回）
（立つ場所やバウンド数、時間など制限して、できるだけ速く正確に、キャッチボールをする）

5. 本時の学習（本時は3時間中の2時間目）

- (1) 題材名「相手を取りやすいように、キャッチボールをしよう」
- (2) 日時 平成25年8月30日（金） 5校時（14:00～14:45）
- (3) 場所 加納岩小学校 あすなる学級
- (4) 本時の目標

- ① 相手を意識してボールを投げたり，捕球したりすることができる。
- ② 相手のことを考え，適切な声かけをすることができる。

【個別の目標】

B児 1年	①相手をみて，相手に向かってボールを投げたり，落とさずボールを捕ったりすることができる。【5－（5）】 ②相手の様子をみながら，相手に適切な言葉かけをしたり，自分勝手ではなく，相手を意識してボール運動をしたりすることができる。【6－（5）】
C児 4年	①1年生に合わせて，取りやすいボールを投げたり，ボールに合わせて体を動かし，ゆとりをもってボールを捕球したりすることができる。【5－（5）】 ②1年生に賞賛，激励，教授内容等の適切な言葉かけをすることができる。【6－（5）】

（5）本時の展開

流れ	学習内容・活動	指導上の留意点及び・支援の工夫	評価項目・準備品
導入 3分	1. あいさつをする。 2. 前時の振り替わりをする。 ・いろいろなボールやお手玉を使ったことや，いろいろな投げ方をしたことを思い出すようにする。	○静かに教師の方に注目させ，落ち着いて授業を始める雰囲気を作るようにする。 ・様子を見て，B児には，姿勢を意識するように促す。 ・先生方が参観しているが，一度教室を見渡し確認した後，気にしないで学習するように確認する。	シンボルマーク (注目・シー)
展開 38分 (10)	3. 本持のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あいてが とりやすいように キャッチボールしよう</div> ※B児のめあて ・C君に真っ直ぐ投げよう ※C児のめあて ・B君が捕りやすいボールを投げよう ※B児C児のめあて ・相手に声をかけよう	○全体のめあてと個々のめあてを，まず児童に考えさせ，短く確認するようにする。 ・数回投げ合い確認させる。 ・相手に投げるとき，上手くできたとき，失敗したときは，どのような声かけをすればよいか確認する。 ・C児には1年生にアドバイスできるように声をかける。	掲示 ふきだしカード
(7)	4. ボールで運動する ○すくい投げで，個別に箱に入れる。	・B児とC児で距離，穴の大きさを変える。	ボールを入れる箱

	<ul style="list-style-type: none"> 交代で、一人3回入るまでです。別の児童は箱の近くで玉拾いしながら応援する。 <p>○すくい投げで、二人でキャッチボールをする。 (10回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山なりのボールが投げられるように、ロープを箱の前や、児童の間に張り、その上をボールが通るようにする。 失敗したら「おいしいよ」「がんばって」などの声かけができるようにする。 横黒板の表にボールが入ったら○をする。 教師が手本として児童とキャッチボールをして、捕り方の確認をする。 捕りやすい投げ方を心がけさせる。 	<p>確認表 ゴムひも おもり付きの立つ棒2本 ソフトバレーボール 10カウントめくれるカード</p>
(7)	<p>○ワンバウンドで箱に入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両手投げで上から、床にバウンドさせる。 交代で、一人3回入るまでです。別の児童は箱の近くで玉拾いしながら応援する。 <p>○ワンバウンドのキャッチボールをする(10回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 力の調節の仕方を意識して、今度は強めに床にバウンドさせるようにする。 B児とC児で距離を変える。 横黒板の表に、ボールが入ったら○をする。 C児には1年生に合わせ、教えてあげられるように声をかける。 できるだけ相手が動かさず捕れるように投げるのが、上手な投げ方だと声かけをする。 上手に投げられたときは褒めるようにさせる。 	<p>【5-(5)】 【6-(5)】 目標①②の評価 10カウントめくれるカード</p>
(7)	<p>○小さいゴムボールを下から投げて箱に入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交代で、一人3回入るまでです。別の児童は箱の近くで玉拾いしながら応援する。 <p>○小さいゴムボールでキャッチボールをする。 (10回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 投げる手と反対側の足を前に出し投げるようにさせる。 力の調節の仕方を意識して、今度は優しく投げるようにする。 B児とC児で距離を変える。 横黒板の表にボールが入ったら○をする。 教師と練習でキャッチボールして、ボールの捕り方を確認する。 上手に投げられたときは褒めるようにさせる。 状況に応じ、お手玉に変える。 	<p>小さいゴムボール ボールを入れる箱 ゴムひも おもり付きの立つ棒2本 10カウントめくれるカード 小さいゴムボール お手玉</p>
(7)	<p>○スーパーボールをワンバ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子でカット、または回数を減ら 	

	<p>ウンドさせて、自分の紙コップに入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交代で、一人3回入るまでです。入ったら別の児童が表に丸をする。 <p>○相手がバウンドさせたスーパーボールを、紙コップに入れる。(10回)</p>	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽く床に落とす程度にさせる。 ・斜めに床に落とすほど、遠くに飛んでしまい難しいので、最初は真下に近い角度でバウンドさせる。 ・慣れてきたら少しだけ離れるようにする。 	<p>スーパーボール紙コップ</p>
<p>まとめ</p> <p>4分</p>	<p>5. 活動のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返り、感想を言う。 <p>6. 次回の確認をする。</p> <p>7. あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言えないときは、教師の「真っ直ぐ投げられた人」「相手に声をかけられた人」「相手が上手と思った人」等の間に挙手させ、学習を振り返らせる。 ・次回からも相手を意識しながら、何秒間で何回キャッチボールができるか、決められた場所から動かずキャッチボールができるか、オーバースローで捕りやすいボールが投げられるか等、学習していくよう伝える。 ・姿勢をよくして終わるようにする。 	

(6) 評価の観点

B児 1年	<p>①相手を見て相手に向かってボールを投げたり、落とさずボールを捕ったりすることができたか。【5-(5)】</p> <p>②相手の様子をみながら、相手に適切な言葉かけをしたり、自分勝手ではなく、相手を意識してボール運動をしたりすることができたか。【6-(5)】</p>
C児 4年	<p>①1年生に合わせて、取りやすいボールを投げたり、ボールに合わせて体を動かし、ゆとりをもってボールを捕球したりすることができたか。【5-(5)】</p> <p>②1年生に賞賛、激励、教授内容等の適切な言葉かけをすることができたか。【6-(5)】</p>

6. 座席

黒板

B児 1年生	C児 4年生
-----------	-----------

横黒板

7. 板書計画

ボールで たのしく うんどうしよう

あいてが とりやすいように きやちちぼうる しよう

顔B まっすぐ あいてに ぼうるを なげよう

顔C B君に とりやすい ボールを投げよう

あいてに こえを かけよう

あいてに なんと こえを かけたらいいかな

○なげるとき...
Bくん いくよ
Cくん とってね
うまい

○ぼうるが はいったときや
あいてが とれたときや
じょうず

○ぼうるが はずれた とき...
おいしいよ
がんばって
もうすこし

(横にある黒板)

	①すくい なげ	②バウンド なげ	③小さい ボール	④スーパー ボール
B 児				
C 児				

① すくいなげ
はこいれ・きやちちぼうる

② ぼうんどなげ
はこいれ・きやちちぼうる

③ ちいさいぼうる
はこいれ・きやちちぼうる

④ すうばあぼうる
じぶんの かみこつぶにいれる
あいての かみこつぶにいれる

8. 成果と課題

ボールを使った運動は、授業後も子どもたちがやりたがり、自立活動の時間として、週の中で短時間、少しずつ取り入れてしている。これらのボール運動などを通して、B児は飛んで来るボールが怖くて初めは目を背けてしまっていたが、ボールを怖がらずに見て、あまり落とさずにボールをキャッチできるようになってきた。C児がB児に合わせて、優しく取りやすいボールを投げてくれていたことが、大きな理由の一つだと思える。また、B児は相手を意識して、相手を見ながら、おおよそ思ったところにボールが投げられるようになってきた。捕るときも

投げるときも、目と手の協応ができてきて、体全体の動かし方も慣れてきた。相手への声かけは、投げる時は特に、相手にボールが行くことを意識させるように、何かしら声かけができてきた。まだ心がこもっていない機械的な部分があるが、日常生活でも適切な相手への声かけにつながるように支援していきたい。相手が捕れたとき、失敗したときの声かけは、自分に余裕が十分無い分、まだ不十分である。しかし、相手が捕れたとき、歓声を上げたり、拍手したり、飛び上がったたりして喜びを体で表現できているので、相手に喜びが伝わっていると思える。休み時間に交流学級の友だちとボールで遊びたがらなかったB児だが、ボールに慣れ、交流学級の友だちともボールで遊べるようになってきた。同年代の子どもとできるだけ同じ遊びをしていこうと思えるようになったことは成果であった。

C児は低学年に教えながら、低学年に合わせて運動することで、非常に相手のことを考え、適切な声かけ、ボール投げができるようになった。教えたり尊敬されたりしながら、自尊心も高まったように感じられる。

低学年生が投げて、弾んだスーパーボールを紙コップに入れるという運動は、繊細な手先の動き、空間認知力、ボールが来る軌道を予測する力などが非常に必要とされる。それらの運動を繰り返すことで、C児事態も身体の巧緻性、繊細な動き、空間を認知する力などが、以前より大分身に付いたように感じられた。また、相手への声かけもとてもよくできるようになり、ボールなどを投げる前に、相手が自分を意識するまで声をかけ、相手が捕る態勢になったのを待ってから、できるだけ捕りやすく投げられていた。非常に相手意識が高まったと思える。C児もB児同様、体育の時間や休み時間などに、同学年の子どもと苦手なボール運動をすることに消極的だったが、自信をもち、進んで交流学級内でもボール運動をしていけるようになってきた。相手のことを考えながら積極的に活動していける態度を、交流学級や全校の中でもこれからも発揮し、将来社会に出てからも自信をもって活動していける態度と能力を身に付けられるように、これからも仕組んでいきたい。

その後、距離を教室内でできるだけ遠くしたり、片手投げで投げるようにさせたり、いろいろな方法でキャッチボールをさせた。段々上手になり、制限時間の中で、たくさん落とさずキャッチボールができるようになった。体全体の使い方や、注意力、集中力、ボールの動きを予測する力などが、B児もC児も大分向上した。

また、不登校だったA児だが、1年生の後半から特別支援学級での授業の時間帯を中心に、現在断続的に登校している。他に、今年度は新しく2年生が4月から入級し、現在2年生3名、5年生1名の計4名があすなろ学級に在籍している。

A児は特に相手に勝ちたい、強いボールを投げてやっつけたいという気持ちが強く、力加減も難しい。ルールを工夫し、相手に取りやすく、長くキャッチボールが続くことを狙いとさせることで、徐々に相手のことを考え、相手に取りやすいボールを投げられるように、少しずつなっている。しかし、教師が近くで見えていなかったり、キャッチボールなどが続いたカウントを取らなかつたりするときは、相手の取りやすさを考えた投げ方はできない。わざと捕りづらく投げ、相手が取れなくて戸惑う姿を見ることで、自分が優位に立ち、喜びを感じているようなところがある。A児に対しては、自分の身体能力をより高め、勝負に勝つ喜びも味あわせながら、相手の立場に立ち、力の調節をして優しく運動できることにも喜びを見い出していきたい。これからも仕組んだり支援したりしていきたい。

新しく入級した2年男子は、キャッチボールを続けるという意味がなかなか理解できず、投げたボールが様々な動きをして飛んでいくことを楽しがっていた。自分の投げたボールに対して相手が動くことが、相手が取れても取れなくても嬉しいと感じていた。むしろ取れずに失敗するときの方が喜んでいようだった。得点表などを利用し、1回でも長くお互いキャッチボールできたことを褒めていくことで、相手を意識した投げ方が徐々にできるようになってきている。しかし、A児と同様に、教師が近くで見えていなかったり、カウントを取らなかったりすると、相手が捕りやすいボールを意識して投げることは難しい。一人遊びが好きな児童だが、定期的に特別支援学級内で友だちと関わらせながら運動させることで、相手意識を高めさせ、適切な接し方が身に付くように支援していききたい。そして、交流学級内や他学年に対しても、身に付けた相手意識を生かしていけるようにしていきたい。

今年度も、自立活動の時間として、週に数回5分程度、スーパーボールの紙コップキャッチなどをする時間を設けている。今では、4人で広がって、上手に2周程は失敗せずにスーパーボールを回せるようになった。初めは力加減が難しかったA児や新しく入級した2年生も、相手に取りやすいように投げることを考え、力の調節ができるように徐々にできている。

また、床にコートを作り、ネット変わりのゴム紐を張り、床でするテニスのような卓球（通称床卓球）にも挑戦中である。コートもネットも無視してフルスイングしてしまったり、ラケットの真ん中に当て、うまく相手へ返すことは非常に難しかったりするが、次のステップとして徐々にできるようにしていきたい。そして、培った力を交流学級や他の場所でも発揮し、その場にふさわしい適切な言動で、積極的にどこでも活動していけるようにさせていきたい。

得点表の例 誰と組み合わせになっても、1回でも多く続いた方が、自分の合計点数がよくなる。実際は名前毎、色分けして表示。

なんかいつづかな? 月 日

	くみあわせ	つづいたかいすう
A	たろう じろう	3
B	ころ たま	5
C	たろう ころ	2
D	じろう たま	4
E	たろう たま	1
F	じろう ころ	2



	こじんの てんす う	ごうけい
たろう	3 + 2 + 1	6
じろう	3 + 4 + 2	9
ころ	5 + 2 + 2	9
たま	5 + 4 + 1	10



ふわっとしたボールになるように、ゴムひもの上を通し、的に入れる。

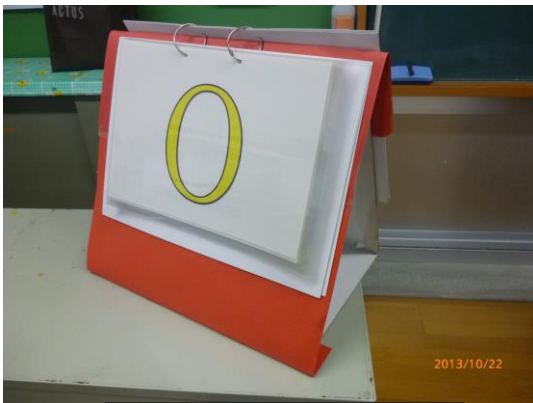
ふわっとしたボールになるように、ゴムひもの上を通し、キャッチボールする。



弾ませたスーパーボールを紙コップでキャッチする。初めは相手と近くから、垂直に近く落とす。徐々に距離を取る。



上からボールが的に入るように、ゴムひもの上を投げさせる。ゴムひもには色画用紙を巻き、見やすくしてある。



まくって見やすい得点板



児童の関心を引く的



ボールを的から出す穴と棒



上の枠をかぶせたり取ったりして、的の大きさを換え、難易度が変えられる的